

Welfare [ウェルフェア]

2015年度社会福祉助成事業 実施要綱決定

2014

54

CONTENTS

P2 平成27年度 社会福祉助成事業実施要綱

P4 くつきり! 福祉の未来形 ~日社済助成事業報告

「歌体操を媒体として認知症者と交流するための歌体操研修会」
— 歌体操介護予防市民塾 —

P6 社会福祉事業視察

仏ジャルダン・ド・コカーニュに学ぶ「就労支援シンポジウム」
— 帯広畜産大学 —

P8 「空飛ぶ車いす」活動レポート

空飛ぶ車いす、今年も東北へ行く!
青少年の活動レポート

P15 福祉の共済コーナー

P16 チャレンジ!! 介護福祉士

働きながら 国家資格に挑戦する あなたを応援します!

平成27年度 社会福祉助成事業実施要綱

平成27年度

くっきり！福祉の未来形

公益財団法人 日本社会福祉弘済会

社会福祉助成事業 **実施要綱**

主 旨

少子高齢化が進展するなかで、社会福祉制度の充実と福祉サービスの多様化が求められています。そして福祉サービスの提供にあたっては、利用者との対等な関係の確立やサービスの質の向上などが課題となっており、利用者のニーズに合った支援の充実を図るためには、支援業務に携わる方々の役割が重要性を増しています。

本会の助成事業は、そうした増大、多様化する福祉需要のなかで、社会福祉関係者の専門性向上などを旨とした「研修事業」や「研究事業」、また地域社会で草の根的に取り組んでいる“先駆的事业”に一部助成することにより、豊かな福祉社会の実現に寄与することを目的とします。

1 助成対象事業／助成内容

- ① 社会福祉関係者の資質向上に関する研修や研究(下記A～Dの対象事業から1つ選択してください。)
- ② 社会福祉事業でそのテーマや内容に先駆的要素またパイロット性があるもの
- ③ 事業の目的が明確で、実施後の具体的な成果が充分期待できるもの

	対象事業	対象経費	助成額
研修事業	A 集合研修 福祉サービスのあり方や専門的知識、技能の習得などをテーマとして開催される集合研修事業(研修会、セミナー、講演会など)	講師謝金・交通費 宿泊費・会場費 報告書作成費	助成対象項目経費 合計の80%以内 かつ50万円以内
	B 派遣研修 福祉施設職員などが幅広い視野と専門性を持って支援業務に携わるために、他の福祉施設、団体などで一定期間実習する派遣研修事業	交通費 宿泊費 報告書作成費	
研究事業	C 実践研究 各福祉分野の先駆性ある事業の実践を通して行われる成果、課題のまとめなどの実践研究事業	実践研究事業費 調査経費 報告書作成費	
	D 調査研究 社会福祉関係者の専門性の向上、現任訓練の方法や体系、また就労、福利厚生などをテーマとする調査研究事業	調査経費 謝金・原稿料 報告書作成費	

2 助成金総額／事業実施期間

- ① 助成金総額 / 2,000万円以内
- ② 事業実施期間 / 平成27年4月から平成28年3月末までに実施される事業を対象とします。

対象とならない事業 営利活動、宗教活動、政治活動を含むもの。またこれらの目的のために利用される事業。

3 申請条件

- ①申請団体は社会福祉事業や福祉施設の運営、福祉活動などを目的とする社会福祉法人、福祉施設、福祉団体などとなります。
- ②法人格のない任意団体、グループは市区町村社会福祉協議会の推薦を得て申請してください。
- ③申請は1団体、1事業とします。

4 申請方法

- ①申請書 / 平成26年9月以降に、当会ホームページからダウンロードしてください。
- ②申請期間 / 平成26年11月1日(土)～平成26年12月12日(金)消印有効
- ③提出先 / 〒130-0022 東京都墨田区江東橋4-24-3
公益財団法人 日本社会福祉弘済会 助成事業係 TEL:03-3846-2172

5 添付資料

申請時、下記資料を添付して提出ください。

- ①申請団体の定款(任意団体は規則、規定)
- ②申請団体紹介パンフレットや団体発行の機関誌など
- ③申請団体の前年度の事業報告、決算書
- ④申請団体の役員(会員)名簿

6 審査 / 結果通知

申請案件は本会「選考委員会」(2月開催予定)の選考を経て、理事会(3月)で決定します。
選考結果は、採否に関わらず3月に各申請団体に書面にて通知いたします。

7 助成事業の実施について

- ①助成事業の中止や事業内容に変更が生じた場合は、前もって書面でご連絡ください。
- ②助成事業に関わる広報資料や会議資料、報告書などに本会助成を受けている旨を明記してください。

8 事業完了報告書の提出

助成事業終了後1ヶ月以内に、完了報告書を提出ください。

- ①事業完了報告書(様式指定)
- ②事業成果物(講演レジメ、チラシなど)
- ③収支計算書(予算に合わせて申請事業全体の収支計算書を作成してください。その際、助成対象経費の領収書のコピーを添付してください。)
- ④事業成果原稿(様式指定)

※事業完了報告書の作成要領は、助成決定時にご通知いたします。

申請書はホームページからダウンロードできます。

<http://www.nisshasai.jp/>

●事業成果報告集

歌体操を媒体として認知症者と交流するための歌体操研修会

歌体操介護予防市民塾

塾長 加藤 昌子

一、はじめに

歌体操介護予防市民塾は、2009年8月に吹田市が公募した「まちづくり市民塾」の活動団体として応募して、プレゼンの結果採択され、2年間吹田市の委託事業として歌体操での高齢者施設への訪問活動を実施しました。以降この活動を継続的に言い、多くの高い評価を得て活動中です。

近年、激増している認知症者を対象として活動していますが、ボランティアの高齢化による活動の低下を防止し発展させるために、歌体操の集合研修を日社済の助成を得て実施しました。

二、助成事業概要

団体の活動目的は、高齢者施設における認知症者を対象に、歌体操を媒体として交流する事によって明るく元気な姿を少しでも取り戻せる事を狙いとして、最終的には、笑顔が出ること



集合研修会のようす

をひとつの評価として活動しています。

吹田市内では50ヶ所以上の老人ホーム、介護施設等がありますが、現在当塾が対応できているのは10〜15ヶ所であり、他からも多くの歌体操の出動要請を受けていますが、ボランティアの高齢化と対象者、対象施設の激増でも対応することができておりません。そこで今回申請した内容で、歌体操ボランティアの技能養成

講座を開催し多くの施設に歌体操のボランティアを派遣できるように計画し、実施しました。

集合研修会の時期、内容等

- 1 時期 毎月2回
- 2 場所 吹田市千里市民センター 他
- 3 対象者人数 30名 延べ 700名
- 4 毎月発行するメニューによる歌体操技能研
- 5 講師 外部講師 藤川安高先生

三、事業の成果

歌体操集合研修会を年24回開催し、延べ692人の研修を実施し、当初計画していた内容を実施することができました。受講生の技能が格段に上達し、意識も高まり高齢者施設でのボランティア活動にも積極的に参加する機運が芽生えてきました。

現在、吹田市内で高齢者施設12施設でボランティア活動を実施しています。ここへの受

講生の見学者が5施設15人あり、体験実習をすることにより、集合研修会の成果が高められたと思えます。

現在受講生の中で15人程度が高齢者施設でボランティア活動を実施しており、他の人も刺激を受けて活動に入る形になりつつあります。事業の成果の一端だと考えています。高齢者施設での認知症者を主とした対象と考えていますが、近年それ以外の一般の方たちに、健康体操としての歌体操が見直され、教えて欲しいという要望が多くなっています。各地域で10人程度のサークルが数グループがあり、ここでの指導も今後大きな柱になっていくと考えています。多くの高齢者の健康面での支援ができることも大切な要件だと思っています。

今後、高齢者の増加と高齢者施設の増設でますます歌体操への要望と期待が高まってくると考えています。この研修会を継続するとともに更に内容を高め、社会貢献の道を進みたいと考えています。



歌体操のようす



施設での歌体操のようす

日社済の助成金により、指導者を確保し会場を確保して、研修会ができたことは、幸せでありました。今後も、是非日社済の支援を受けて、高齢者の味方である歌体操を充実させていきたいと考えています。

四、成果の広報・公表

この研修会が吹田市社会福祉協議会に認められて、歌体操介護予防市民塾と共催で、一般市民から歌体操初心者参加者を募集して歌体操講座を実施するところまで進展しました。応募者が20名あり、充実した歌体操講習会を開催することができました。広報誌「心ふれあいSA吹田通信」にも今後掲載する予定にしています。今後の広報により、ますます歌体操の知名度を上げ活動を定着させて行きたいと考えています。日社済の助成金は他にあまり知られていないと思いますので、今後関係諸団体にもこの助成金の存在を知ってもらいどんどん活用し、活

動の発展に役立てるよう進めていきたいと思っています。当団体も、このようないい助成金があるのを初めて知り、申請して助成金をいただけたのは幸運でした。今後この活動を更に充実させたいと願っています。

五、今後の展開

健康寿命というのがあり、平均寿命との差が11年あるということを初めて知りました。この11年間の健康寿命と平均寿命の差こそ注目すべき事項であると認識しています。

健康寿命とは他人の手を借りないで生活できる年であり、平均寿命とは死亡する年齢であるから、その11年は健康保険や介護保険のお世話になり、病院や介護施設で生活することになります。この健康寿命を少しでも伸ばすことが、歌体操を行うことで達成できるとしたら、この活動をしてきた甲斐があるということだと思います。その道へ進みたいと思っています。



施設での歌体操のようす

● 社会福祉事業視察

仏ジャルダン・ド・ココアーニユに学ぶ就労支援シンポジウム

日本社会福祉弘済会

理事 遠藤 秀樹

一、はじめに

平成26年6月、北海道・十勝サホロリゾートにて「仏ジャルダン・ド・ココアーニユに学ぶ就労支援シンポジウム」が開催されました。帯広畜産大学・長澤学長の開会挨拶、浜田新得町長による歓迎挨拶に続き、基調講演が行われましたので、概要についてご報告させていただきます。



帯広畜産大学 長澤学長

二、基調講演1

「フランスにおける有機農業を活用した社会的弱者雇用への取組」

ジャン・ギイ・ヘンケル氏

(ジャルダン・ド・ココアーニユ創設者)

通訳：南谷 桂子氏

(講演要旨)

仏ジャルダン・ド・ココアーニユは、フランス全土120カ所で展開し、360ヘクタールの環境重視型の持続可能な農業(バイオ型)を実践しています。またこれらの農場では、社会的弱者(長期失業者・ホームレス・麻薬・アルコール中毒者・ひきこもり・刑余者など社会復帰の困難な人)を訓練生として採用し、質の高い有機野菜を生産・出荷し、定期購入者に提供して、高収益をあげるなど高付加価値を実現しています。そして訓練生の46%が社会復帰(収入を得て納税するなど)を果たすなどの成果を上げています。2013年8月には、日本の谷垣法務大臣が視察に訪れ、刑余者を出所後にどう就労・社会復帰させるかについて、ジャルダン・ド・ココアーニユでの成功事例を興味深く聞いておられました。

今フランスでは、社会連帯経済(Social Solidarity Economy)を国全体で推進しており、社会的弱者の救出(生活保護からの脱却)に社会全体で取組んでいます。具体的には、社会的弱者個人への支援ではなく、そういう人たちを採用して社会復帰を促す企業体への支援が主流となっています。

最後になりますが、今回のシンポジウムを通じて、将来的に日本の「ソーシャルファーム・ジャパン」とフランスの「ジャルダン・ド・ココアーニユ」の間で何か具体的な連携ができないかと考えております。世界はもうグローバルな時代になっています。例えば、それぞれの組織で働く若者同士の交流を図ること

とで、世界で活躍できる優秀な若者の育成に努めたいと思っています。



ジャン・ギィ・ヘンケル氏

三、基調講演2 「日本における社会的弱者雇用」

炭谷 茂氏
(ソーシャルファーム・ジャパン理事長)

(講演要旨)

日本では、社会的にハンディを持つ人の就労状況は依然として厳しく、障害者、特に精神障害者の就労状況は厳しいです。(17%しか働けない)また元受刑者(特に高齢者)も住居や職がないため再犯を繰り返す悪循環が生じています。このほか高齢者、難病患者、ひきこもりの若者などを加えると、かなり多

くのハンディを抱えた人がいます。

こうした人たちの社会からの排除、孤立が、日本において今急速に進行しており、「日本の底が割れている」状況にあります。この問題の解決のためには、ハンディを抱えた人たちが仕事などを通して社会とのつながり(接点)を持つことが必要になります。



炭谷 茂氏

つまり社会的目的をもって、ビジネス的な手法を用いて、社会的ハンディをもった人たちが生きがいを感じながら働ける職場としてのソーシャルファーム(社会的企業)が必要だと考えます。

日本におけるソーシャルファームの展開としては、「未来の日本を担う分野」に進出することを考えています。成長産業であり、他との競争にも勝てる、社会的意義が大きい、付加価値の高い事業を考えています。社会的ハンディを持った人を多数雇用するためにも必然的にそうなります。

分野としては、環境・農業・福祉・サービス業の分野になります。

環境分野では、3R(Reduce、Reuse、Recycle)といった環境と経済の両立を目指した事業を高岡市に設立しました。(アルハイテック・資本金2億のベンチャー企業↓廃アルミによる水素利用)高付加価値のベンチャー企業として、軌道に乗れば高齢者・障害者等の受け皿として就労支援につながると確信しています。

また農業分野では、飯能市で自然農法による野菜栽培(NPO法人たんぼぼ)を実践しています。今後、もっと発展する為には販売力の強化、資金面での強化等を考えていきたいと思っています。販売力の強化策としては、ソーシャルファームのネットワーク形成とソーシャルファームのブランドの確率(ロゴマークなどを考えています。特にロゴマーク等の浸透によるブランド化でソーシャルファーム自体の知名度・販売力アップにつながりばと思っています。

また資金面では、日本の大企業の参画・出資(社会貢献)によるソーシャルファイナンスの確立を目指していきたいと思っています。

最後に、社会的ハンディを持った人たちは、「保護される」のではなくて、社会の一員として「自立」できるよう支援することを第一義に考えるべきであると思います。

一人の人間として社会の中で当たり前のよう生きていく(働いて収入を得る)ことができるような社会をつくるべきと考えます。

空飛ぶ車いす、今年も東北へ行く！

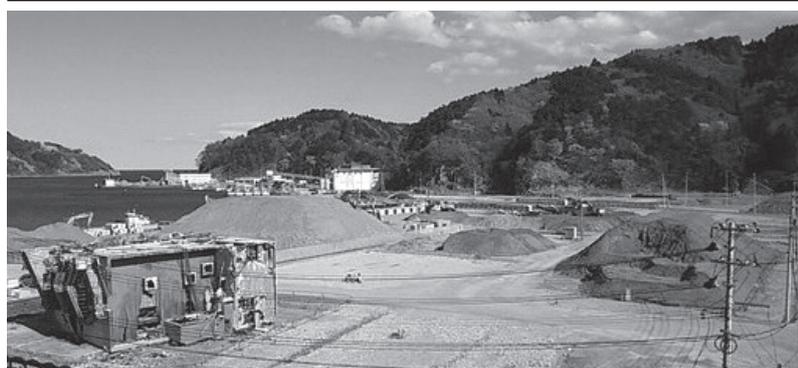
— 今回の活動が神奈川テレビで10分間放映されました！



気仙沼市 燦さん館デイサービスセンターにて

使われなくなった中古車いすを修理して、海外の人たちにプレゼントをする活動が続けている「空飛ぶ車いす学校グループ（28都道府県81校）。東日本大震災の後は被災地の車いす支援にも乗りだし、東北3県に4百台を超える車いすを贈ってきました。震災から既に3年、今回は5月4日〜6日のゴールデンウィークに女川町社会福祉協議会、大船渡市気仙苑、気仙沼市燦さん館デイサービスセンター、福寿荘デイサービスセンターを訪れた神奈川工科大学、新潟医療福祉大学の学生たちのレポートをお届けします。

女川町社協地域センター前



2013年



2014年

車いすの利用台数が増えているということは気仙苑の利用者が増えているということ。

神奈川工科大学3年
島野 克弥

私は今回で3度目の訪問となりました。初めて訪問した時は、施設全体からどこか寂しい雰囲気を感じましたが、今回の気仙苑は職員の方たちも仕事にやりがいを感じているように思え、今までにはなかった賑わいでどこか暖かい感じがしました。そして、中でも強く印象に残っていることは活動2日目の大船渡市の気仙苑での修理活動で、私は今までの修理活動ではなかった初めての経験をしました。3それは年前のものとは明らかに違う汚れでした。そして、修理が必要な車いすの台数が今までよりも増えており、このことから車いすの利用台数が増えているということがわかり私は車いすの利用台数を通して気仙苑の利用者が増えているということ



島野克弥さん

を知ったような気がしてとても嬉しく感じました。今回の活動で私が直に感じたことは、目には見えなくとも確実に復興は進んでいるということであります。瓦礫の撤去や新しく建物を建造することだけが復興ではありません。そこに人が生活できる環境があり、心配や不安がなくなった時こそが真の復興だと感じました。

若い人が観光で来てくれるだけでも嬉しい。

神奈川工科大学3年
梅原 直人

私が被災地（女川町）に足を運んだのは今回で4回目です。1回目は高校3年生のとき、女川町内の港のあった場所でボランティア活動をしていました。2回目以降は、KWRに入り今回の様な被災地活動の際に訪れました。3回目を訪れた際、その付近で港が完成したのを見て、感激しました。周辺は観光地として復興する計画のようです。今回（4回目）、土や建築材が所々にあり、女川町の地盤を盛土するための準備が進んでいるのを見ました。土地も嵩上げされることで、また少しずつその様子を見るのが楽しみです。KWRの活動で赴くだけでなく、プライベートで東北に観光として遊びに行くのも復興の手助けになると考えています。実際に現地の方からお話を聞きましたが、若い人が観光として足を運んでくれるだけでも嬉しいと聞きました。

今後もKWRとFWSは、被災地の支援を続けていこうと思っています。来年度は他と違う場

所で活動をしてみたいのです。もっと多くの方に支援ができるように。



梅原直人さん

これからも東北活動に参加していきたいです。

神奈川工科大学2年
池田 拓海

去年も東北活動に参加しましたが、今回の東北活動で感じたことがあります。ある程度復興が進んできた今、1年では大きな変化はあまりないと感じました。やはり、大震災などの復興は10年単位で時間のかかる事なのだと改めて実感。今回の活動で反省しなければいけない点が多かった。途中から作業に参加する形になったため、全体の流れが掴めずどのように動くのか理解できなかった。そこで各代表と連携が取れなかったため、かなりバタバタし全体のタイムスケジュールが崩れてしまった。この様に、全体的な連絡・確認を怠ったため作業が潤滑に

進まず、代表をサポートするという自分の目標を果たせたかは怪しいところである。改善点や反省点・2度目の活動でやらなければいけないことなど、今後の活動方針が見えたと思います。これからも東北活動に参加していきたいです。



池田拓海さん

被災地のために活動が出来る事に、大きな充実感と誇りを感じた。

神奈川工科大学1年

近藤 斗輝

4日、宮城県女川町へ、車中から景色を見てみると今まで民家が普通に並んでいた町並みだったはずなのに、いつの間にか景色が一変し、空き地と所々に残っている瓦礫が海岸まで広がっていた。この時からすでに私は「復興はまだ終わりが無い」と頭の中に書きとめていた。

5日、この日は岩手県大船渡市の気仙苑で、車を修理した。前日に比べて数が多く、実際修理できた数も少なかったが、タイヤ交換などをFWSの先輩に教えていただき、技術の向上を実感することが出来た。6日、最後の日。この日は先に直しておいた車いすを燦さん館と福寿荘の

二つの施設へ運んだ。それぞれの職員の方に3・11についての話を聞いた。以上が私が経験したKWR最初の活動であり合宿だった。正直、復興がまだまだ終わりが無いことに、驚愕した。3・11から早くも3年たったが、いまだに震災の爪あとが被災地に深く刻み込まれていまままで、「被災地のためにこうした活動が出来ることに」、大きな充実感と誇りを感じた。こうした活動を続けていき、これからもがんばって行きたいと思うことが出来ました。



近藤斗輝さん

被災地も。パンク修理も初めて。

神奈川工科大学1年

加藤 佑亮

私は秋田県出身で岩手や宮城とは近い所に住んでいたが実際に被災地を訪れたことは今までありませんでした。同じ東北の者として、一度は訪れたいと思っていたので活動に参加すると決めました。実際に被災地を訪れてみて、考え

ることは多かった。さらに私は車いす修理も初体験であった。私は、前日に少し経験したばかりの車いす修理をすっかりこなせられるか心配であった。案の定修理するのは難しく、一台を直すのにかかるの時間がかかった。それでもわからないことをひとつひとつ先輩に聞いていくうちに車いすの仕組みや、どういった原理で動くのかを知ることができた。そして修理の仕方、多少ではあるが覚えることができた。例えば、キャスターや大車輪の動きが鈍ければベアリングに原因があるから、その汚れを落とす。車輪ががたつくと乗る人が使いにくくなるから、ボルトの締め具合を調整するなどである。どれも初歩的なことだが、私からしてみればすごいことのように思えた。こうして修理し終えた車いすは福祉施設へと返還された。施設のかたは車いすの需要に限りはないとおっしゃっていた。それはつまり自分たちの活動に終わりが無いことを意味しているということでもある。一年に一回の訪問ではあるが、とても大きな意味もった一回であることに間違いはない。周りからの期待に応えるためにもこの活動が大切なことであると実際に肌で感じることで良かった。



加藤佑亮さん

自分が被災地をみて感じたことを
沖縄のみんなに伝えるために。

神奈川工科大学1年

川満 太一郎

震災の時、私は沖縄でクラスのみんなと居残り授業をしていた。地震が起こりすぐに帰るよいう先生に言われ、私たちの所が揺れたのではなかったのだ、そんな大したことないだろうと思いで流れていた光景に絶句したことも。連日テレビで流される被災地のことをどこか現実でないような気がしていた。それを現実にする為に何も知らない自分が被災地をみて感じたことを地元のみんなに伝える為にこの活動に参加しようとした。仙台に着き、思っていたよりも被害がなく普通だったので復興が進んでいるのだと思った。その後、最初の活動場所である女川町に向かった。女川町で私はすごく驚いた。町が広がっていたであろう場所が空き地になっていた。女川町社協地域センターでの作業が終わり、震災当時のお話を聞く機会があった。地域センターの近くには、震災をわすれないために倒壊したビルが残されていた。それを見て津波の激しさを知ることができた。震災から3年、私は遠く離れた土地から東北にやってきた、そして思ったのは3年でこれだけしか復興できないということ、また、まだまだ続いているということが、私が復興にむけて少しでも役に立つことができるのなら、また来年もこの活動に参加したい。

いつかこの体験が役に立つと
信じている。

新潟医療福祉大学2年

柴田 恭介

今回は代表として、初東北、初遠征だった修理会そのものはなんとか終了したものの力不足を痛感する結果になりました。

FWSは東北に行くに当たり、明らかにミーティングの数が少なくKWRともうまく連絡が取れていなかった。そのため東北へ行くために立てた個人の目標は全員同じ方向を向き切れていなかった気がする。事前学習もかねてしっかりとミーティングを重ねて東北を知れていればもっと成長できただろう。

東北での活動で人間的にも技術的にも大きく成長



ミーティングを行うFWSとKWRの皆さん

長することができました。まだ実感はないが、いつかこの時のことが役に立つ時がくると信じています。また機会があれば東北へは足を運びたい。

前へ進んでいることに感動しました。

新潟医療福祉大学1年

井上 樹

今回東北に行こうと決めた理由は2つあります。1つ目は、大震災から約3年たち、現在どのような状態になっているかを見たからです。

震災が起こった時、私は地元である大阪にいました。震災の状況はテレビ越しでしか判らなく、正直な所、あまり実感がわきませんでした。今回訪れることによって自分の何かが変わるのではないかと思つたのです。

実際訪れてみて、3年前テレビで見た景色と



FWSのメンバー・男子高校生も参加

は全く別の風景でした。復興はまだまだ……いや、3年までここで復興できるものなのだなと思いました。しかも復興だけでなく、もし、同じようなことが起こっても対処できるように前へ進んでいることにとても感動しました。2つ目は、車いす修理の知識を増やしたかったからです。今回参加して、OBの方からも、KWRの方からも、「その手があったか!」「そうすればいいのか!」と思わされることが沢山あり、本当に参加してよかったなと思いました。次回も参加したいなと思えるものを得られたので、次回もぜひ参加したいと思います!

仮設住宅は写真より質素に見えました。

新潟医療福祉大学1年

篠塚 梨乃

震災当時私は諏訪の中学生でTV映像でしか被害を見ることがありませんでした。それから3年。大学の空飛ぶ車椅子サークルで、ゴールデンウィークに東北で活動することを聞き、3年前は何も出来なかったけど、今ならほんの少しでも、何かの役に立つことが出来るのではないかと思ひ、参加しました。社協の方から、今回の活動拠点の高台の上にあるこの場所です津波が押し寄せたこと等、少しですがお話を聞くことができました。多くの人が大切な人やかけがえのない人を失ってしまったことを改めて実感し、悲しいと思いました。一番印象に残っている事は最終日、修理の終わった車椅子を施設に運ぶ道中でした。目的地の近くにずらりと

並んだ沢山の白い建物が目に入ってきた時です。一瞬でそれが仮設住宅だと分かり、驚きました。確かに少なからず、まだ仮設住宅に住んでいる人もいるとは思いましたが、ここまで多くの仮設住宅居住者がいるとは思わなかったからです。仮設住宅は写真で見ると思わなかつたから見えませんでした。私は今回の活動に参加して、震災の爪痕がまだどれほど残っているのか、その中で被災地の人々がどのように生きているのか、少しでも知ることができました。来年もまたこの活動に参加し、今回よりも多くの車椅子を修理し、被災地で使ってもらえるようになりたいと思います。

震災の事実はショックの連続でつらかった、けど。

新潟医療福祉大学1年

平井 瑠奈

私は福島県出身で、津波の被害は受けなかったものの、震度6弱もの大きい地震を経験しました。生まれて初めて経験した大地震、激しい揺れとミシミシとなる家、落ちてくる者に何が起っているのかすぐには判りませんでした。ただ必死の想いで家の外に逃げました。あれから3年がたち大学生になりました。そんな時にこのプロジェクトに誘っていただきました。不安は大きかったのですが、積極的に行動し学べることが全て学ぶということを目指し東北の復興に少しでも力になれるという気持ちで東北に向かいました。この3日間で沢山の人の出会い、沢山のお話を伺い、自分も成長することができたと思います。このプロジェクトに



FWSとKWRの皆さん 女川町社協地域センターにて



後列左から 平井さん、栗栖さん、上口さん、井上さん
前列左から 石川さん、篠原さん

参加して知らずにいた震災の事実を知ることができました。知ることはショックの連続でつらかったこともありましたが、知らずに過ごすよりずっといいです。もつと多くの人に震災のことを知ってもらいたいと思いました。私自身もさらに車いすの修理の技術をあげて、もつと復興の力になりたいと思う3日間でした。

2年目の実感、支援は続けるから意味がある。

新潟医療福祉大学2年

栗栖 亜実

ある方に「復興はどうですか？」と質問をした。すると「逆にどう見えますか？」と聞かれたので、私は進んでいるのは確かだけれど、自分が思っているより前全復興されていないです。と自分の思ったままを言った。するとその人は「あらそう？ 確かにまだまだな場所もあるわね。でも確実に気持ちは前に復興へ向かっているんですよ」と言ってくれた。東北の景色は去年と比べ何も変わっていないのではないかと思う場所、パッと見て復興が分かる場所、そう言えば……ような小さな変化の場所と様々だった。私は活動中東北の景色に目を向け一喜一憂しながら過ごしました。復興していると変化がわかるころは勿論嬉しいし、変化がまたな場所を見て残念な気持ちになっても今年はそのばかりにとらわれず、1年に一度しか来れないけれど、一緒に一歩一歩前に進んでいこうと思えました。外部での活動は毎回精神的にも自分を成長させてくれる場所だなど思いました。今回初めて東北

の活動に参加する人が何人かいて、その中には去年の報告会で発表したスライドを見て来ようと思った人もいたみたいでした。来年も再来年もこの先もずっといろんな人が参加してほしいなと思いました。来る前はいろんなことが不安だったけれど、今年も参加することで復興支援は続けるから意味があることを身をもって知ることができたと思います。

勇気をもらった。

2014年5月4日〜6日

新潟医療福祉大学2年

石川 由佳子

生まれて初めて行く東北。楽しいだけではなく反省することも見て感じることもたくさんあった。

もし自分はここにおいて自分よりもほかの人の命を大事にしなきゃいけないとき本当に他の人のために尽くせるか。考えれば考えるほどなん



石川由佳子さん

だか暗くなってきた。もし、自分の住んでいる新潟が、海や川が近くにあって住み慣れている友達がいる新潟がまるで舗装されていない砂利の駐車場のようになつたら。そう考えたらなんだけ涙が出てきて、考えただけでこうなるってことは実際に見て感じて体験した方々はこんななまぬるい気持ちでいれなかったな……と思った。それでも気持ちは前を向いていて、いつまでもいじじいしている自分とは全然違った。今自分がしなければいけない事、やりたいことを貪欲に頑張ろうと思う。投げないで立ち向かいたいと思う。偉そうな事を言っつて終わりにしないように頑張ろう。



日社済ではこれからも空飛ぶ車いす学校グループがおこなう取り組みを支援していきます。学生たちの精力的な活動内容に、ぜひ注目ください。

高校生を中心に修理大会開催!!

「大森から世界へ」2014年6月21日
大森学園高校で空飛ぶ車いす修理大会
が開催されました。

大森学園からは車いすメンテナンスグループ13人を筆頭に誠和会（PTA）、野球部・陸上部・女子バスケット部・自動車部の部活参加の生徒さんが参加。外部参加は大田区役所広報担当、森工車椅子会、東京蒲田ロータリークラブ、大森子供交流センター、馬込東中学校、空飛ぶ車いすin神栖（茨城県神栖町社会福祉協議会）、神奈川工科大学、新潟医療福祉大学、福祉新聞社、日本社会福祉弘済会等々で100人を超える大人数になりました。参加者全員が汗まみれになり、42台を修理することが出来ました。大森学園2年生の菅谷君から空飛ぶ車いす活動について説明がありました。「平成12年にスタートしたこの空飛ぶ車いす修理大会は今年で第15回目を迎えますが、延べ2500人の方々が参加されました。「大森から世界へ」のスローガンの下、今までの主な寄贈先は、スリランカへ233台、韓国へ167台、タイへ114台、東北各地へ102台と続きます。」



大森学園高校に集まった皆さん

2014年6月23日、今年も、岩手県内の工業高校生が一堂に集まり「いわて車いすフレンズ」―車いす整備技術講習会―が開催されました。

今年スタート時間が早かったにも関わらず県下7校から引率の先生と共に約30名の高校生



作業に励む岩手の高校生

が朝早くから集まり車いすの修理・整備活動が開催されました。最初に神奈川工科大学生による映像での昨年のタイレポート報告（空港での受け取り・搬送・利用者への手渡し、車いすの使用環境等）を受け、修理した車いすがどのような流れをたどりどのように活用されるのかを確認しました。その後、実際の修理活動に入り概ね3〜4人一組でノーパンクタイヤへの交換、ベアリングの清掃、ブレーキ調整等修理内容は多岐にわたっていましたが、大学生や先生の指導を受けながら皆さん一生懸命に取り組んで最終的に14台の車いすの再生を行う事が出来ました。参加者からは「とても参考になった」、「以前より修理の方法が理解できた」、「学校での修理に生かしたい」との声が聞かれ、実り多い講習会となりました。

ジブラルタ生命は 「はがき収集ボランティア」を通じて日社済 「空飛ぶ車いす支援事業」を応援しています！

日社済「空飛ぶ車いす支援事業」（アジアの障害者への車いす修繕寄贈）は、使われなくなった車いすを全国の工業高校生が修理し、旅行者などがボランティアで搭乗機手荷物としてアジアの国々へ運びます。パンクしないタイヤの購入費や海外輸送費等には、全国の「はがき収集ボランティア」から届けられた書き損じはがきが活用されています。

今回は、福祉の共済の推進とともに担当する福祉施設や学校などでも「はがき収集ボランティア」を積極的に呼び掛け、社会貢献活動に取り組んでいる社員をご紹介します。

はがき1枚からできるボランティア



札幌北エリア 室蘭支部所属
ライフプラン・コンサルタント(LC)
氏家 浩美

『書き損じはがき100枚で車いす1台が届きます』の日社済の社会貢献活動について、当社も取り組んでいることを私が日頃訪問している福祉施設

の職員の方々にお話しすると皆さん「御社は素晴らしい取り組みをされているんですね」と言ってくださいます。

皆さんの協力や励ましに支えられ、アジア諸国の大勢の人たちが日本からの車いすを待っていることを思い、私も微力ながら頑張っています。

当社では、今年の夏は「サマーキャンペーン」と称し、日頃ご愛顧いただいているお客様方へ当社の社会貢献活動を知っていただくアンケートもおこなっており、「こん

なに色々な事業もしていたんですね、心強いです」との声をいただいています。このようなお言葉を頂く度に、自分自身ますます責任をもって努力していかなければいけないと痛感します。

私はこれからも、担当の福祉施設を訪問する中で、福祉に関する沢山の情報をお客様から得ながら、私からは日社済「福祉の共済」を通じて職員の方々お一人おひとりに経済的な保障と心の平和をお届けしていきたいと考えております。

室蘭支部 石田所長より

氏家さんは前職で福祉施設で長年働いていたこともあり、本当にどんな人にも献身的なサポートができるLCさんです。なかなかそこまでできないあと思えるほど、きめ細かな活動をしています。これからも、さらに多くの福祉施設の方々へ氏家DNAを伝えてくれることを期待しています。

ジブラルタ生命のこれまでの取組

ジブラルタ生命では、これまでも日社済の社会貢献活動に賛同し、書き損じはがきの収集を社内外で呼び掛けてきました。

2005年のスマトラ沖大地震の際には、スリランカへ向けて緊急輸送する「空飛ぶ車いす」の輸送費のため、当社社員が訪問している福祉施設の方々や、当社社員やそのご家族に書き損じはがきの提供を呼びかけ4,500枚を収集し

ました。また、東日本大震災の時には、被災された高齢者や体の弱い方々が使用される車いすのタイヤを、屋外でも使用できるパンクしないタイヤに交換するための費用として3,000枚の書き損じはがきを収集しました。

ジブラルタ生命では、この「いつでも、誰でも『はがき1枚]から参加できるボランティア活動」に積極的に取り組み、日社済の「空飛ぶ車いす支援事業」に協力していきます。

コールセンター

0120-37-2269

受付時間 平日 8:30~20:00 土曜 9:00~17:00
(日曜・祝日・12/31~1/3を除く)

ホームページ

<http://www.gib-life.co.jp>



Gibraltar
ジブラルタ生命



働きながら

チャレンジ

国家資格に挑戦する

あなたを応援します！



「チャレンジ!! 介護福祉士」国家試験 模擬問題セット

介護職として福祉最前線で勤務しながら「介護福祉士」資格を目指す方々を対象に、学習負担の軽減と資格取得支援のためにオリジナル模擬テスト「チャレンジ!! 介護福祉士」を提供しています。

- | | | |
|----------------|---------------|-----------------|
| ① 模擬問題集・マークシート | ② 模擬問題集と解説 | 【4点セット】 |
| ③ 第25回過去問題解説集 | ④ 第26回過去問題解説集 | 定価4,000円(税・送料込) |

詳しくは下記ホームページまたは右記事務局へ (公財)日本社会福祉弘済会・事務局 TEL03-3846-2172

<http://www.nisshasai.jp> ▶ 介護福祉士資格取得支援事業